

世界の人びとのための JICA 基金活用事業 活動報告書

1. 業務の概要	
(1) 事業名	「フィリピン・セブの都市貧困地域でのコミュニティリサイクルへの挑戦」 (チャレンジ枠)
(2) 実施団体名	NPO 法人 FootRoots
(3) 実施期間	2022 年 8 月 9 日～2023 年 8 月 8 日
(4) 実施国	フィリピン共和国
(5) 活動地域	セブ市
(6) 活動概要	<p>① 活動の背景：</p> <p>フィリピンではプラスチックゴミの投棄が深刻な環境問題となっています。当団体が活動する都市貧困地域では、ゴミ処理・回収手配にかかる資金が乏しいことから、コミュニティ内での投棄が常習化しています。また彼らは生活用水や排水の利便性のため、比較的水辺の未利用地等を占拠していることが多く、そういった都市貧困コミュニティの特質と重なり、投棄されるゴミは雨などの作用により川や水路へ、そして海へと流れていきます。川や海へ流れ出たプラスチックはマイクロプラスチックとなり海洋汚染を引き起こします。</p> <p>プラスチックゴミ発生の問題は消費活動の中心地である都市部でより深刻であると考えています。そのような地域環境へのアプローチが重要だと考えます。</p> <p>② 活動の目標：</p> <p>本事業ではフィリピン・セブでプラスチックごみの削減と再資源化を目指して、地域住民へのプラスチックゴミに関する環境教育指導と現地のバランガイホールでプラスチックを回収するゴミ箱を設置します。環境教育指導は現地カウンターパートとの協力により現地で環境指導スタッフの養成し、視覚的に教えるために紙芝居を活用して月に 1 回程度各バランガイ(最小自治単位)のコミュニティの単位であるシティオを訪問し、主に地域の子ども達を対象にプラスチックゴミの問題やリサイクルの重要性について指導します。</p> <p>また、地域コミュニティ単位でのリサイクルシステムの実現に向けて、現地でプラスチックのリサイクル機器を一から作成し、Prian 地区に 1ヶ所のリサイクルサイトの確立を目指します。作成した機械を使って実演しながら低所得者コミュニティにごみ分別等についてワークショップとして指導をおこなうことで、実感を与えながら分別の大切さやリサイクルの可能性を都市貧困地域の住民の皆さんと共有します。</p> <p>セブに住む人びとに地域コミュニティ単位でおこなえるリサイクルと製品化までの一連のプロセスを提示することで、リサイクルに対する意識の向上と定着を目指します。</p>

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

【実施内容①】

リサイクル機器の製作

プラスチックの小規模リサイクルに必要な機械（粉碎機、射出機、計2台）の製作を現地でおこないました。都市貧困地域のコミュニティへの訪問しワークショップを実施することを想定し持ち運びが可能なサイズで製作しました。

【実施内容②】

リサイクルベースの確保

活動が現地住民で運用されることを目指し、作成したリサイクル機器を保管・活用するためのリサイクルスペースを、セブ市中心部にある歴史的建造物 Jesuit House Museum に隣接する場所に設置しました。

【実施内容③】

リサイクルワークショップ

都市貧困地域のコミュニティを訪問し、スライドや紙芝居を使った環境教育や分別指導に加え、地域のごみ拾いやリサイクル機器を使ったリサイクル体験会を実施しました。リサイクル体験にはペットボトルキャップを使用し、粉碎から新しい作品への成型までを体験できるようにしました。

(2) 実施成果：

コロナ禍や現地の台風被害の影響もあり、当初の想定からスケジュールと実施内容を一部変更して、主に現地訪問時の活動を中心に実施しました。

実施期間の最初にリサイクル機器を現地で製作できたことで、機械やリサイクル品を示しながら、またリサイクルを実演しながらの環境教育を実践することができました。

活動開始のキックオフ会を含めると、ワークショップは場所を変えながら1年間で合計6回実施することができました。持ち運びが可能なサイズとして作ったことを活かして6回の内3回はリサイクルベースを飛び出し、現地セブの児童養護施設や女性支援施設、路上生活者のシェルターに出張ワークショップとして開催することができました。

また活動拠点となるリサイクルベースを確保したことで、リサイクル機器等の必要な備品類を安全に管理できるとともに、ワークショップも開催できる場所を確保することができました。特に、リサイクルベースと同じ敷地にある Jesuit House Museum は地域の民間博物館として開放されており、また小さなセミナーにも使えるスペースを有しているため、観光客はもちろん、地元の人びとも出入りする場所であり、環境教育やリサイクル活動を広めるのにとても良い場所として活用できます。

ワークショップを通じた環境教育では、「リサイクルを実際に体験することでとても環境問題とリサイクルが身近に感じる事ができてとても良かった。」や「ごみをポイ捨てしないことやごみを分けて捨てることなど自分でもできることはやりたい」などのリサイクルや分別についての前向きな意見を共有することができました。

(3) 得られた教訓など：

ワークショップなどのイベントを計画する際には、参加者ごとの特性を踏まえ、企画段階のタイムスケジュールと実際の進行には必ず差があることを見越して、その差分を含めた計画を練ることの重要性を学ぶことができました。イベントにおいてすべてをコントロールしようとするのは現実的ではないので、現地の方に進行役を任せられるように要点を事前に押さえて協議しておくことができれば、イベント当日に余裕を持って運営することができる。

環境教育などの際には一方的に教えるのではなく質問や対話、ゲーム性を持たせることで飽きさせることなく主体的に問題や解決策の共有を促すことができる。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

次のステップとして、本事業で制作した持ち運び可能なリサイクル機器を活用し、セブ島の各地域で環境意識やごみ分別意識、リサイクル意識の向上を目指して、リサイクルの実演と体験のワークショップをセブ島の各地域を訪問して実施します。

また、現地で小規模なプラスチック回収システムの構築を目指し、さらにはリサイクル品として付加価値を乗せて製品を販売し安定した収益を上げ、プロジェクトの自立的な運営ができるところまでを目指します。

都市部で生じる新たな産業資源としてプラスチックを捉えることで、小規模のコミュニティビジネスの実験的取り組みとして提示することで、低所得者コミュニティの中から新たなリサイクルのプレイヤーが登場することや近隣バランガイへ拡大することも期待しています。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

年間で開催した計6回のワークショップでは、参加者が想像以上にプラスチックリサイクルに対して興味や関心を示して参加している姿が見られました。また複数回に渡り地域住民や施設などの老若男女に対してプラスチックゴミに関する環境教育指導を実施でき、参加者からもリサイクルや分別について前向きな声が聴けた事は今後の活動の励みになりました。

(2) 活動の写真



リサイクル機器製作の様子



Injection(射出機)製作の様子



Shredder(粉碎機)製作の様子



プロジェクト説明会の様子



粉碎機でペットボトルキャップを砕く



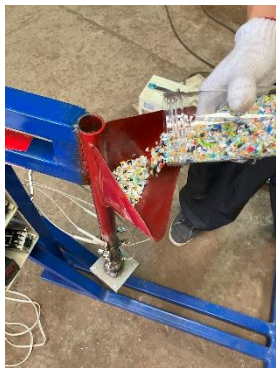
射出機の仕組みを説明する



色ごとに分けたプラスチックチップ



環境教育の様子



プラスチックを射出機に入れる



ホームレスシェルターでの環境教育の様子



射出機で型枠に溶かしたチップを注入する



女性保護施設での環境教育の様子



射出機から型枠を取り外す



児童養護施設での紙芝居を用いた環境教育の様子



できた作品を型枠から慎重に取り外す



環境教育での学びと意見交換の様子



できた作品を手にする参加者



環境教育後に近くの場所のごみ拾いをする



失敗も経験しながらリサイクルを体感する



日本からの学生ボランティアと一緒にごみ拾い



できた作品を並べてデザインを考える



ワークショップ後の記念撮影

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

弊団体にとって正に大きな挑戦となる本事業において、JICA 基金活用事業を受託したタイミングは本事業の立ち上げの段階であり、そのようなタイミングで経験豊富な伴走支援をいただける JICA 基金活用事業を受託したことは大変心強い思いでした。

特に、現地でリサイクルを実演しながら環境教育をするという強みや特性を踏まえ、本事業で製作したリサイクル機器を活用したワークショップの開催やリサイクルベースの確保など、現地での活動を継続する上での確かな足掛りを作ることができ、次の段階としてセブ島各地での移動ワークショップの開催という新たな目標を、活動を通して設定することができました。JICA 基金活用事業として活動を実施できたことに感謝申し上げます。